

校長挨拶より【高校受験】

さて、本校は 1876(明治 9)年滋賀県彦根の地に「金亀(こんき)教校」として創立され、その後「金亀仏教中学」「第三仏教中学」を経て、1910(明治 43)年に現在地「京都」にて「平安中学校」を名乗りました。そして、わが学園は今年の 5 月 21 日で満 136 歳になりました。137 年目に入る今年度、コースコンセプトを明確化させ新たなスタートを切りました。それでは、本校の教育理念についてお話しさせていただきます。

平安の目指すものに「人間力向上」と「学力向上」の両立を据えました。これは正に『建学の精神』に謳われているところでもあります。端的に申しますと、平安は「浄土真宗を代表する学校」になりたいのです。すでに、ご承知のことですが、京都女子学園・龍谷大学・平安学園が京都の浄土真宗本願寺派の宗門校であります。京女は「心の学園」龍大は「ともいきを目指すグローバル大学」を標榜され、建学の精神の具現化のめあてを平易な表現を用い、打ち出しておられます。本校も正式には「仏教精神に基づく情操教育を行うことを目的とする」というのが、わが平安の建学の精神ですが、これを 2003 年学校改革の年からは「ことば・じかん・いのちを大切に…という平安の三つの大切」と、覚えやすく平易な、そして生徒の気づきに繋がる文言におきかえております。平安の目指す「人間力向上」はここにあります。

具体的に説明いたします。一般には教育の三本柱として、知育・体育・徳育の三つが挙げられますが、平安の目指すところは、上記三本が並立している図式ではありません。土台に宗育(徳育)があり、その幹から知育・体育の花が咲き、実がなるという図式です。知性を磨くこと、体育に精一杯の汗を流すことはもちろん大事なことでありますが、それ以上に大切なことは、自己の真実の姿を徹底的に真摯にたずねることです。その姿勢があつてこそ、聖なるもの(絶対的なもの)に触れることができ、そこで初めて、本来の真の人間の生き方ができるのであり、そこにこそいかなる困難にもくじけることのない強靱な生き方が生まれるのです。知性の開花も体育の充実も、その上に成り立つことを理想としています。

少し前ですが、「IQ」知能指数と同様に「EQ」の大切さがクローズアップされたことがあります。「EQ」とはこころの知能指数とも呼ばれ、現代社会を生きる力の指数であると言われています。私はこの「EQ」を育てることが、仏教的なものを見方ができる人づくりだと考えています。こころを一本の幹(き)に例えると、花や葉は夢の実現や体力と学力の向上、それを支える枝は知育と体育、そして、その枝に栄養を運ぶ動脈は人間力です。そして、幹を育てる根から吸収されるすべての栄養源が「EQ」。

つまり「こころの知性」であり、我々が行う宗育なのです。正に、知と情を統合する教育、具体的には他人に対する思いやりの心・自制、つまり自分自身で自分の心をコントロールすること・他人と力を合わせて協力し周りとの調和を重んじる、そうした教育、つまり、EQ「こころの知性」を磨くのが平安です。

「ことば・じかん・いのちを大切に」する生き方を平安の 3 年間を通して身につけることが、人間力と学力を向上させる最善の道筋であると考えます。

まず「ことば」は心の表れだから、素直な心と謙虚な心を持って常に心を整えるようにしなさい。

二つ目の「じかん」は時々刻々と進んでしまいます。今日すべきことを明日に延ばしてはいけません。今という時間を大切にしなさい。

最後に「いのち」です。仏教的なものの方、考え方の根本には『縁起』があります。これは『すべてのいのちのつながりの一つとして私がある』と捉えるものです。これは、私を中心に私の目で、まわりを眺める立場をとるものではありません。謙虚さの目でもって世の中を見、また、自己をも見つめる姿勢が基本なのです。己を知ってこそ克己心、つまり、自分自身を奮い立たせる心が芽生え、人間力が向上するのです。

この私のこの「いのち」は実は預かりものです。預かっているからこそ粗末にはできないのです。大事に預かるとは預かっている間中、しっかり磨きをかけておくということです。磨く人は親でも先生でもありません。預かっている本人である自分しかいません。また磨く時は今です。しっかり磨きなさい…と申しております。

これが建学の精神を具現化する龍谷大平安の生徒の姿であると考えております。

それでは、なぜ、EQ「こころの知性」を磨く必要があるのかといいますと、これから、三つのキーワードを使ってお話しします。三つとは「不安」「希望」「楽観」の三つです。

「不安」は知性を阻害する、と言われていています。たとえば航空交通管制官のように強いプレッシャーのかかる高度な知的激務の場合、慢性的に不安の強い人間は、まず例外なく訓練段階か現場に出たあとで失敗を起こすらしいです。航空交通管制官をめざして訓練中の1790人を調査した結果によると、不安の強い人間は知能テストの成績が良くても失敗を起こす確率が高いのです。

不安は、学業成績にも全般にわたって悪影響をもたらすと言われていています。不安にとりつかれやすい人間ほど学業成績が悪いという傾向が出ています。不安が強すぎるタイプにとっては、テスト前の不安は思考や記憶を妨げる原因となり、テスト中の不安は明晰な頭脳の働きを妨げる要因となるのです。

全く逆の発想からいうと「希望の力」と言うことになりましょう。これが二つ目のキーワードです。ある心理学者は、次のように解説しています。「希望を持ちつづける能力の高い学生は自分自身に高めの目標をおき、しかも一所懸命努力してその目標を達成する力がある。知能が同じなら、学校の成績を決めるのは希望の力だ。」と言っています。この希望を持ちつづける能力の高い人たちに共通の特徴として、自分自身に動機づけができること、目的達成の方法を見つける才能が自分にあると感じていること、困難な状況に陥っても事態がやがて好転するにちがいないと自分を元気づけられること、あまりにも大きすぎる目標を処理可能な小さな目標に切り替えるセンスをもっていること、などがあげられています。

「EQ」の観点から言いますと、「希望を持ちつづける」とは、難しい問題に直面したり失敗したとき不安に負けないこと、沈み込んだりしないこと、などです。実際、希望を持ちつづけられる人は目標めざしてがんばっているときに、落ち込むケースがほとんどありませんし、全般的に不安や精神的ストレスもほとんどありません。

また、三つ目のキーワードである「楽観」も希望と同じで、失敗や挫折があっても最後はうまくいくだろうという強い期待を維持できる能力です。「EQ」の観点からいうと、楽観とは、困難に直面したときに無気力や絶望感に陥らないよう自分を守る態勢を意味します。ものごとを楽観的に見るか悲観的に見るかは、生まれつきの気質かもしれませんが、気質は経験によってある程度変えられるものです。楽観や希望の根源にあるのは、自分は自分の人生をしっかり理解できている、難しい問題にも対応できる、という自信です。何であれ得意な分野ができるとその人の自信に繋がり、より大きな目標めざして冒険したり挑戦したりする意欲がでます。さらに難局を乗り切ると、それがまた自信感を強化します。その自信によって人間は自分の持っている才能を最大限に生かすことができ、自分の才能を伸ばす努力ができるようになるのです。

というように、色々お話しいたしましたが、ここまでにお話ししましたことはすべて、自分自身のこころの問題で、こころの有り様(よう)をどうもっていくかということにかかっています。だから、EQ「こころの知性」を磨く必要性があるのだ、ということになります。

最後に、今年度からコースコンセプトが明確化されております。今までは、プログレスコースからもクリエイトコースからも高校3年に進級時、龍谷大学を志望すれば、そのクラスに進み、内部推薦で龍谷大学に進学しておりました。しかし、今年度からは、今までにお話ししました建学の精神は、龍谷大平安の教育の根幹としながら、クリエイトコースは「龍谷スタンダード」として、人間力をしっかりとつけたいと思っております。特に、プログレスコースは国公立・有名私立大学を目指すコースとして、しっかりと進学校化いたします。アスリートコースは、甲子園を目指します。

そのためには、これから具体的に説明いたしますが、生活偏差値の向上に基づく授業力の向上をしっかりと図りたいと思います。よくお聞きになって、是非とも学校選びの一番に龍谷大平安をあげていただきますよう切にお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。